

まちづくり委員会にて 市執行部に対して 地域課題への取り組み状況を質す



決算審査で質疑を行う 阪本かつみ

■ 荒川第二調節地にアウトドア施設等の検討が進む!

Q 河川空間にBBQやキャンプといったアウトドアやスポーツアクティビティ施設、憩うことのできるカフェやレストランなどの整備に市民は期待を寄せています。これまでの検討状況について伺う。

A 国・県とともに実施したサウンディング調査には11事業者が参加し、事業スキームや事業期間、洪水時の被害に対するリスク分担などについて様々な提案がありました。事業者との対話を継続しつつ、国・県とともに事業化に向けた課題整理や事業スキームの検討を進めてまいります。



■ 道場三室線は令和5年度末までの開通を目指す

Q 工事の進捗及び中島地区の交差点箇所の整備状況について伺う。

A 国道17号大宮バイパスまでの整備については、トンネル内部を含めた表層工、照明等の施設整備、街築工事等、今年度末の供用開始に向けて工事を進めています。
また、中島地区の信号設置予定の交差点箇所については、本線に交差するC-29号線の相互通行を前提として交通管理者と協議をしています。



道場三室線整備の現状 10月18日撮影

■ 西浦和駅周辺のまちづくりが進む

Q 西浦和駅周辺のまちづくりについて進捗状況を伺う。

A 本年、駅前広場や検討候補路線沿いの地権者を対象に、駅前広場・アクセス道路の整備検討を周知する目的で説明会を開催したほか、現地測量を行っています。
今後、西浦和のまちづくりを進めるにあたり、田島団地の将来像は、駅や団地周辺の基盤整備を検討するうえで非常に重要な要素となります。UR都市機構において田島団地の将来像を精査し、それを踏まえ、西浦和駅周辺のまちの将来デザインを検討し、今年度中に素案をまとめる予定です。



田島団地では一部建替が進められています 10月18日撮影

■ 油面川流域における浸水対策が進む

Q 油面川流域における流域貯留浸透施設の整備計画について進捗状況を伺う。

A 今年度、新開、栄和小学校において、工事着工に向けた詳細設計を行い、来年度の工事着手を予定しています。
また、新たに、土合中学校、道場1丁目公園の2施設の基本設計を行う予定となっています。



定例議会レポート2023.9月定例会

さいたま市議会議員

阪本かつみ

～市民に開かれた議会を目指して～



議会での役職

立憲民主・無所属の会さいたま市議団 団長/市庁舎等整備検討特別委員会 委員長/まちづくり常任委員会 委員

さいたま市議会9月定例会は9月6日から10月20日までの日程で開かれました

9月定例会は、決算議会とも言われるように令和4年度の決算審査がメインとなりますが、その他にも、新たな放課後の居場所の確保を図る「(仮称)さいたま市放課後子ども居場所事業」の実施や、「さいたまスポーツシュレ推進施設」の整備に向けた費用を盛り込んだ補正予算も提出され、子育て支援策やスポーツ振興策などについても活発に議論が行われました。

また、ESCO事業における債務負担行為について、議会の議決を得ずに変更増額契約を結んでいたことが発覚したことから、臨時本会議を開き、市執行部を厳しく追及することとなりました。

今回のレポートでは、令和4年度決算議案や補正予算議案の概要、地域課題への取り組み状況等についてご報告いたします。



会派を代表し討論を行う阪本



新たに実施する「放課後子ども居場所事業」とは?

本市の民設放課後児童クラブの整備は、利用ニーズの増加に追いついていない状況です。

また、民設クラブの半数以上は保護者会が中心となるNPO法人であり、運営に係る保護者負担が大きいことから、新たな放課後の居場所確保が必要となっています。

そこで、利用を希望する全ての児童を対象に、身近な小学校を活用して、多様な体験や異年齢間の遊びを通じた交流ができる放課後の居場所を提供することを目的に、「放課後児童クラブ」と「放課後子ども教室」の一体型事業として実施するものです。



・令和6年度はモデル事業として4校を選定し実施します。
栄小(西区)、鈴谷小(中央区)、岸町小(浦和区)、新和小(岩槻区)

・事業スケジュール
令和5年10月:事業者の募集 / 令和5年12月:契約締結 / 令和6年4月:運営開始

令和4年度一般会計 歳入歳出決算は 「不認定」

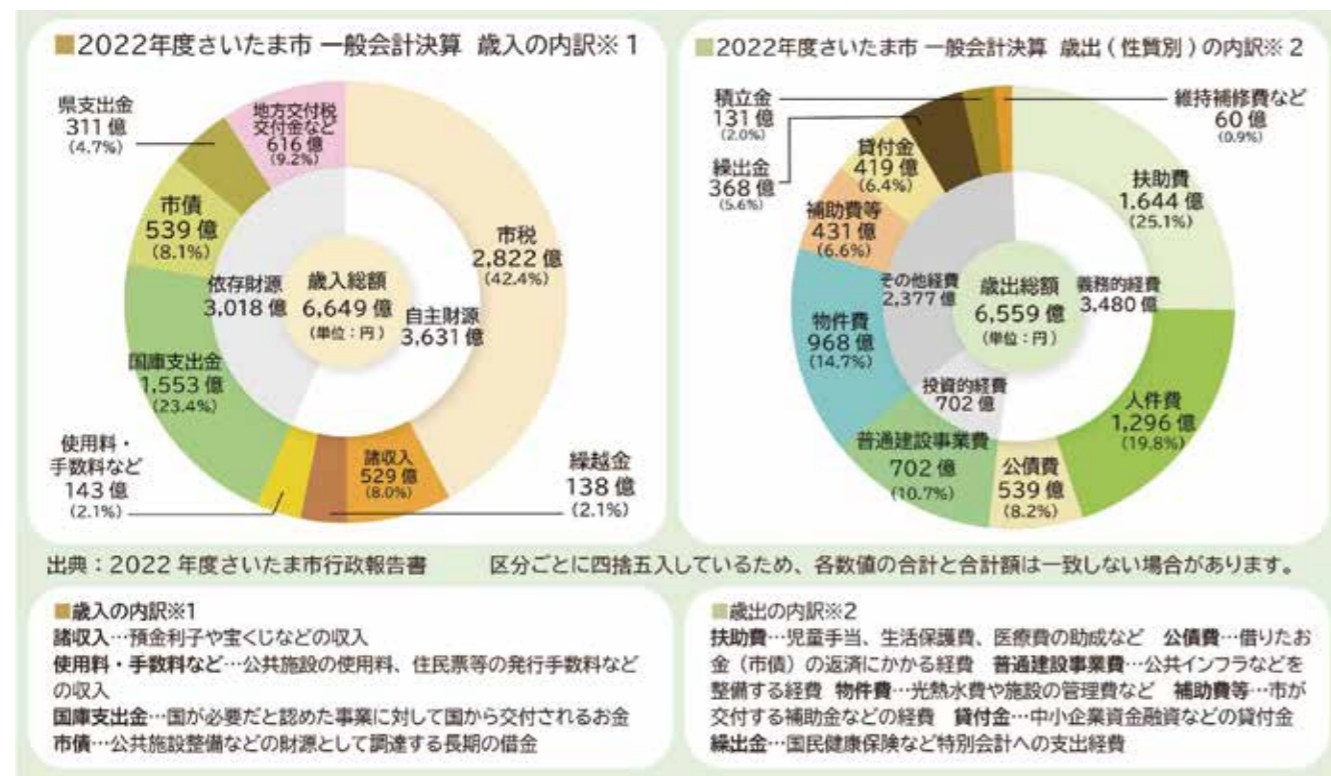
公衆街路灯一斉LED化(ESCO)事業において、本来必要な「債務負担行為」の増額議決がなされないままで変更増額契約されたこと、街路灯設置が事業者に丸投げされチェック体制の不備があったことなど、「法令遵守」や「予算執行管理」の面でも議会との信頼関係を損なう看過できない重要問題と考え、一般会計決算については「不認定」としました。

予算規模

(単位:百万円、%)

区分	令和4年度	令和3年度	増減額	増減率
①予算現額	713,636	705,596	8,040	1.1
②歳入決算額	664,902	653,864	11,038	1.7
③歳出決算額	655,893	640,100	15,793	2.5
④差引額 ②-③	9,009	13,764	▲4,756	▲34.5
⑤翌年度へ繰越し	3,048	6,438	▲3,388	▲52.6
⑥実質収支 ④-⑤	5,961	7,328	▲1,367	▲18.7

一般会計決算歳入歳出内訳



決算の特徴

令和4年度は、「新型コロナウイルス感染症と自然災害対策の強化」、「ポストコロナを見据えたさいたま市らしさの深化」、「誰一人取り残さない包括的支援の充実」、「市役所DXの推進と公民学共創」の4つを柱として、感染症の拡大による難局を乗り越え、さいたま市の更なる発展に繋がる事業を実施してまいりました。

- ・決算規模は、令和2年度に次いで過去2番目を記録
- ・実質収支は、59億61百万円で、連続して黒字を達成

○決算審査を踏まえた予算編成に向けた提言書を提出

- ・未利用市有地の適正活用及び維持管理コストの削減に向けた体制を構築すること。
- ・内部統制の執行体制を強化し、不適正な事務処理の未然防止を図ること。
- ・困難を抱える女性を支援するため、男女共同参画センター等の運営体制の強化を図ること。
- ・特定空き家等の状況把握を徹底するとともに、管理不全な空き家に対し、あらゆる措置を講じること。
- ・民設放課後児童クラブへの原油・物価高騰に対する支援の充実と、放課後支援員等の処遇を改善すること。など、決算委員会として提言書をまとめ、市長に提出しました。

市による法令違反を厳しく追及、再発防止を求める!

さいたま市議会は、公衆街路灯をLED化する『ESCO事業』について、平成30年度当初予算において24億6千万円の債務負担行為を認める議決を行いました。その後、想定より街路灯数が多かったことから、市と事業者は金額を増額する契約を令和2年3月に結んでいました。これは年度をまたいだ契約変更であり、市は議会に債務負担行為の変更の議決を求める必要があるが、その手続きを行っていませんでした。また、維持管理費が毎年度の計画額の上限を大きく超過していることも分かりました。これらの問題が発生した原因は、当時の管理職及び担当者ともにルールの認識が不足していたこと、維持管理費が計画上限額を超えていると認識していたものの後年度の支払いで調整すればよいと考えていたこと、市民からの修繕要望を事業者が直接受け付ける体制であり市が執行状況を把握できていなかったことなどがあげられます。本件は地方自治法違反であり、議会や市民との信頼関係を大きく損ねる重大な事案です。そのため臨時本会議が開かれ、私は会派を代表して緊急質問に登壇し、市執行部を厳しく追及しました。私たちは二度とこのような問題が起きないように厳しくチェックを行うとともに、市に対し透明性のある市政運営と再発防止策の確実な実行を求めてまいります。



市執行部を厳しく追及する阪本かつみ

※債務負担行為 1つの事業や事務の予算執行は単一年度で完結するのが原則だが、後の年度まで「負担=支出」が発生する場合にはあらかじめ後の年度の債務を予算で約束すること

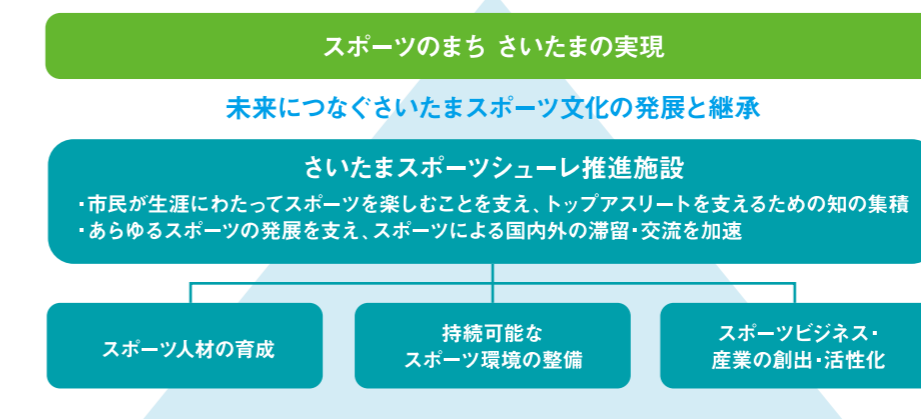
いよいよ動き出す!さいたまスポーツシュレ推進施設整備

私は、地域の皆様のご要望を受けて、桜区の活性化に資するとともにシンボリックな施設となりうるスポーツシュレ推進施設の必要性をこれまで何度となく一般質問などで訴えてまいりましたが、この度、整備に向けた施設計画や事業スキーム等を整理した基本計画を策定するための予算が決定いたしました。

整備予定地

桜区上大久保519(埼玉県立衛生研究所跡地)敷地面積13,326㎡

施設の理念及び目的



施設の具体的な機能

多目的グラウンド、多目的研修室、屋内トレーニング施設、データルーム、サロン・情報スペース、スポーツテックラボ、カフェ(飲食スペース)、宿泊室・浴室、シャワールーム、受付・事務所など

「2024年度 予算編成及び施策に対する提案」を市長に提出

私たち立憲民主・無所属の会さいたま市議団は、会派基本方針「市民と共に明日を創る」のもと議会活動を展開しています。今夏、市民や各種団体から、市政に対する様々な声をいただきました。会派内において議論を積み重ね、「2024年度 予算編成及び施策に対する提案」に取りまとめ、清水勇人市長へ提出しました。

